論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　学　術　）	氏名	Riski Agung Lestariadi
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

Developing Risk Management Framework for Small-scale Shrimp Farming
-A Case Study in East Java, Indonesia-
（　小規模エビ養殖業のためのリスク・マネージメントの発展
—インドネシア、東ジャワの事例—　）

論文審査担当者

主　　査	教　授	山　尾　政　博
審査委員	教　授	山　本　民　次
	〃	河　合　幸一郎
	准教授	細　野　賢　治

〔論文審査の要旨〕

本論文の目的は、インドネシアの小規模エビ養殖業のリスク・マネージメントのフレームワーク（枠組み）を発展させることである。具体的な課題は、１）小規模エビ養殖業者のリスクとリスク・マネージメントに対する認識と姿勢を明らかにすること、２）現在養殖業者が採用しているリスク・マネージメント戦略の効果を測定しつつ、リスクの起源を明らかにし、今後の戦略のあり方を検討することである。ジャワ島の二つのエビ養殖産地を対象に事例調査を実施し、Exploratory Factor Analysis（EXA,探索的要因分析）等の手法にもとづいて、養殖場の特性に影響を与える因子を決定した。また、Business Process Model（BPM）と AS/NZS ISO31000:2009 によって示されたリスク・マネージメント・プロセスの連携モデルを用いて、リスク・マネージメントの枠組みを提示した。

本論文は６章で構成されている。**第１章**では、インドネシアのエビ養殖業の動向と養殖経営が抱えるリスクについて解説された。**第２章**では、インドネシアの輸出志向型エビ養殖業の特徴が明らかにされ、本研究を進めるにあたって必要な先行研究の整理が行われた。世界的に用いられるリスク・マネージメント手法が紹介され、本研究が対象とする小規模養殖業には AS/NZS ISO31000:2009 が適していることが明らかにされた。**第３章**は、分析手法、事例調査の対象地・対象者の属性等に関する説明である。分析手法では、１）EXA 手法によってリスクの起源とリスク・マネージメント戦略をグループ化する、２）AS/NZS ISO モデルを用いてリスク・マネージメントの７段階を特定する、３）BPM 手法によってリスクの可能性とリスク・マネージメント戦略のあり方を検討する、との手順が示された。

第４章では、小規模エビ養殖業者のリスクに対する認識と姿勢が分析された。養殖業者がリスクと認識したのは 32 項目あることが明らかになり、それを８つにグループ分けした。35 のリスク・マネージメント対応が確認でき、９つに分類した。以上を踏まえて、養

殖業者の特性、認識、対応戦略の関係性について分析し、養殖業者の認識は様々な要因によって影響を受けることが明らかにされた。養殖業者はリスクを減らす工夫をし、他のリスクに対しても適応できる戦略を見出していた。**第５章**では、AS/NZS ISO31000:2009 に基づいたリスク・マネージメントの枠組みが提示された。枠組みモデルは７つの段階によって構成されたもので、リスクを減らすための選択肢は６つあることが明らかになった。養殖業者は６つの選択肢を適宜組み合わせて最適化をはかることになる。**第６章**では、特定のリスクに対する特別な対応戦略はなく、養殖業者は様々なリスク起源を踏まえて柔軟な戦略をたてておかねばならない、との結論が述べられた。市場経済の動きに強く影響されるエビ養殖業では、養殖経営は収入の多角化をはかり、政府は養殖業者の資金需要に柔軟に応えるべきである。

本論文では、インドネシアのエビ養殖業で中心的な役割を担う家族経営形態、小規模養殖業に相応しいリスク・マネージメントの枠組に関する優れた研究である。東南アジアのエビ養殖業はインドネシアと同様に小規模経営が圧倒的に多いことから、本論文で提示されたモデルは東南アジアに広く適応できるものである。本研究の社会的貢献性はきわめて高いと言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。